

稻穂

TOSUI

在京飯田高校同窓会誌

— 2004(平成16)年創刊 —

同窓生それぞれが
年齢を超えて、職業を超え
互いに人間として語り合
感動の交歓ができる場でありたい

島地五六校長先生幻影

飯田・長久寺墓畔にて

「こんなにも、生徒から慕われ親しまれ敬愛された校長先生など滅多におらんぞ。稀有の人物だったのだ、島地五六校長先生は！」読み終えて大きな感動で呟いた独り言。

これはずっと以前、同窓会事務局で借観した飯田中学・校友會雑誌第16号『島地先生記念號』に感銘の独言である。明治45年3月3日、先生ご逝去（享年57）の経緯、友人や生徒等の追憶文などを網羅満載して、末尾には早くも「島地先生頌徳会」の趣意書と賛助者・発起人の氏名が列記されていた。

それは先生が学校教育に没頭奉仕のため、家庭の経済は厳しく、なお幼児2人の遺族ありと知る人々の呼びかけによって、多数の賛同者が集って発足した「頌徳会」だった。あえて言うならば、先生の逝去と同時または逝去前から早々と結成された世にも珍しい遺族を支援する「頌徳会」だ。

今回、久しく課題だった島地家墓所探訪で、まず真っ先に目に付いたのがこの頌徳会の碑石だったのは奇縁だとと言えよう。

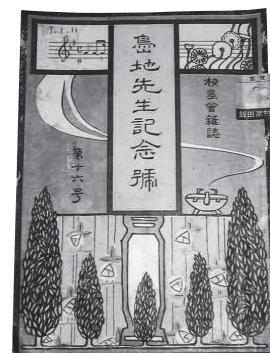
私ども旧制の入学生が初代校長島地五六というお名前を知ったのは講堂にある肖像画でだった。演壇の緞帳からちょっと覗けば高名な藤島武二画伯制作という大きな肖像画を何時でも見ることが出来た。しかし、現在は校長室に収まっている生徒の目に触れる事は少ないらしい。

元々墓地好き人間とはいえ、かれこれ1時間余も島地家墓畔で幻影妄想に耽って、なお去り難い飯田長久寺靈園だった。

牧内雪彦（中47・高1回）



島地五六先生頌徳会碑
(高さ 126cm 横 20cm 奥行 15cm)



旧制飯田中学校友會雑誌第16号
『島地先生記念號』